



多情必死劍

# WI01 多情必死剣

## クレジット

著：ういんぐ (twitter:@wing\_cl)

編集：鮎方高明

挿絵：[acworksさん](#) (写真 AC)

## お約束の但し書き

このプレイセットは、ロールプレイング・ゲーム『フィアスコ』(Bully Pulpit Games) のアクセサリです。

『フィアスコ』について知りたい方は、もしくは他のプレイセットや資料に興味のある方は、[harrowhill.rdy.jp](http://harrowhill.rdy.jp) をご参照ください。

もしプレイセットや『フィアスコ』関連コンテンツの作成に興味があるなら、協力できます。その際は、[dunhere@harrowhill.rdy.jp](mailto:dunhere@harrowhill.rdy.jp) (日本語) か [info@bullypulpitgames.com](mailto:info@bullypulpitgames.com) (英語) までご連絡下さい。

This playset is copyright 2021 by Wing. *Fiasco* is copyright 2009 by Jason Morningstar. All rights are reserved.

フォントは『たぬき油性マジック』『懐映体』『源ノ明朝』を使用している。またダイスフォントは Madirishman 製である。



# 背景

## 江戸、天下泰平の世。

剣の腕のみではお飯にありつけぬご時世。

秘剣と言われた技の使い手も多くは市井に紛れて暮らしておりました。

そこにあるのは強欲色情、果たして剣士達は何に刀を振るうのか。

このプレイセットでは、秘剣を持つとされる人物のために起こる様々な悲劇を取り扱うものです。

## 参考にした世界観

- \* 「隠し剣」シリーズ
- \* 『シグルイ』及び『駿河城御前試合』
- \* 映画『大菩薩峠』
- \* 様々な「眠狂四郎」シリーズ
- \* その他、偉大な剣客時代劇の諸作品

# そこにある【人間関係】は……

## 1 家族

- 平凡な親子
- そう年の離れない「兄弟／姉妹」
- 拾われ子と一人親
- 嫁いできた「嫁／婿養子」と義理の家族
- お見合いのみで結婚した夫婦
- 血縁は全く無いが血よりも濃い絆の仲間

## 2 恋愛

- 一方的に惚れている人とその対象者
- 互いに愛情に気がついているが言い出せていない
- 圧倒的に身分違い
- 親の決めた幼いころからの許嫁
- 互いに同じ相手に惚れている競争相手
- 同性愛者

## 3 社会

- 師匠と弟子
- 侍や浪人
- 職場の同僚
- 趣味仲間
- 店の主人と常連
- 僧侶（少なくともどちらかが）

## 4 剣士の世界

- 供に腕を磨き合う子弟同士
- ◻ 互いに高名になり周囲が対戦を噂している
- ◻ どちらか、もしくは互いが体に深い傷を与えた
- ◻ 試合の場で弟子や師匠を倒された
- ◻ 高名な剣士になる誓いを互いに立てている
- ◻ どちらかに秘伝を託す前に師匠が亡くなってしまった

## 5 罪

- 不貞関係
- ◻ 殺人、ただし下手人が気づいていない目撃者がいる
- ◻ 盗賊、またはかつて一度だけ犯した盗み
- ◻ 放火、共謀もしくは犯人と被害者
- ◻ 賄賂や金銭的な不正の共謀
- ◻ かつて手籠めにした者と被害者

## 6 特殊

- 大名や近臣または役人、管轄分野には強い発言権がある
- ◻ 重要な秘密の証拠を隠している
- ◻ 仇討ちの途中
- ◻ 隠密や忍び
- ◻ 切支丹、もしくは西洋人とのハーフ
- ◻ 「とにかくあやつを斬らねば、俺は前に進めぬ」

それが……剣客の道

# そこにある【動機】は……

## 1 復讐

- 立会人の前で正々堂々と打ち倒すことで
- ◻ 蟄居や投獄の恨みについて
- ◻ 家族、師匠、主君の汚名をそそぐため
- ◻ 全てを闇に葬ることで
- ◻ 社会的な権力によって
- ◻ 理解されずとも自分にとっては何よりの侮辱だったから

## 2 出世、栄達

- それを目指すことが当然だと教え込まれたから
- ◻ 亡くなった親や師匠が望んだから
- ◻ そうしなければ成されぬ大業のために
- ◻ 惚れた相手の格に合わせるために
- ◻ 「この世の中、他に何をを目指すモノがある？」
- ◻ 権力を持って全てを変えるために

## 3 剣術修行

- 剣士の子として生まれたから
- ◻ 他に糊口をする術を知らないから
- ◻ 一人の相手を倒すために
- ◻ 己の強さにひれ伏す相手を見るのがたまらないから
- ◻ ただそれが愉快だから
- ◻ もう剣など捨てるべきとわかっている、それでも

#### 4 真相を知る

- 己の出自について
- かつての不正 / 罪について
- 秘剣は誰に何故受け継がれたのか
- 奴が俺に止めを刺さなかった理由について
- 愛する人が帰ってこなかった夜について
- 奴に勝てない理由について

#### 5 逃避したい

- 酒に
- 遊女 / 陰間に
- 殺伐とした世界から遠いこの日常に
- この場から、今すぐにでも
- これまでに無い剣の才を広めることで
- とにかく人を斬ることで

#### 6 剣を振るう

- 倒すことで金になる相手に
- 生かしてはおけぬ悪人に
- 勝てば名を上げられる相手に
- 修行として、活人剣として
- 降りかかる火の粉を払うために
- ただただ人を斬るために

それが……剣客の道

# そこにある【場所】は……

## 1 街中

- 居酒屋「竹熊」
- 船宿「萬徳」
- 鍛冶屋「善兵衛」
- ◻◻ 医者「源庵」
- ◻◻ ちょうど立っていた市（いち）
- ◻◻◻ 金貸し「達吉」

## 2 街外れ

- 古寺「泰雀寺」
- 稲荷神社、出店が立つことも
- 見通しの悪い竹林
- ◻◻ 茶屋「多見」
- ◻◻◻ かつて商人何某が建てたという廃屋
- ◻◻◻ 四つ辻

## 3 郊外

- すすきが生え並ぶ野原
- 松林を抜けた岬
- 寂れた近郊の農村
- ◻◻ ぼろぼろの廃寺
- ◻◻◻ 城下を見下ろせる丘
- ◻◻◻◻ 話に聞いたことも無い隠れ屋敷

## 4 道場・修行場

- 街中で賑わいを見せる道場
- ◻ 寂れて歩くだけで板目がぎしぎしというぼろ道場
- ◻ 子弟によって磨かれた稽古場
- ◻ 城内に作られた藩士のための稽古場
- ◻ 山深く、滝が流れている泉の側
- ◻ 夜になれば誰も近寄らぬ場所、ひっそりと

## 5 試合の場

- 近臣や殿様の御前試合
- ◻ 道場、子弟が注目する中で
- ◻ 市中、衆人が見守る中で
- ◻ 浜辺、誰も近寄らず人気が無い
- ◻ 屋敷の中、突然に
- ◻ あの日戦った場所、戦うには適切でなくとも

## 6 かつての場所

- 焼け落ちた村
- ◻ 今や廃墟となった道場
- ◻ すでに他人が暮らしているかつての生家
- ◻ 名前の刻まれていない墓石
- ◻ 初めて人を斬った場所、今は面影も無い
- ◻ 己の権力の象徴だった屋敷

それが……剣客の道

# そこにある【物品】は……

## 1 刀

- 業物、刀工の銘が刻まれている
- 練習用の木剣
- 店員の注意を無視して買った中古の安い刀
- 大恩ある人物から譲り受けた刀
- 「泰平の世に刀は不要」竹光を刺している
- 曰く付きの妖刀

## 2 その他の武器

- 匕首、小刀、小柄
- 槍、長槍や短槍、長刀
- 弓矢
- 手裏剣
- 杖、枝、薪雑把
- 火縄銃

## 3 情報

- 藩の裏帳簿
- 世に隠れた名人の所在
- 忍び込んだ隠密の名前
- 秘した情事の証拠
- 謀反、暗殺の指令書、一揆の連判状
- 秘剣それ自体の正体

## 4 秘剣

- 突如身体をよじる、翻すことで目くらましする邪剣
- ◻ 短刀、小柄などで急所を突く隠し剣
- ◻◻ 特殊な構えから変幻自在に襲いかかる変体殺法
- ◻◻◻ 斬られる痛みや身体の欠損などを強みに変じる必死剣
- ◻◻◻◻ 暗闇に目を馴らす、剣の音を消すなどした暗殺剣
- ◻◻◻◻◻ 刀を投げつける、無手にて繰り出すなどの理不尽な秘剣

## 5 感傷

- 本来の性別には似つかわしくない装飾品、男性が簪など
- ◻ 身分不相応に立派な / おんぼろな小物
- ◻◻ 古びた着物
- ◻◻◻ 使用している二刀とは別の刀
- ◻◻◻◻ 破れやほつれを縫い直した御守り
- ◻◻◻◻◻ 家紋を削った跡

## 6 小道具など

- 馬
- ◻ 兵法書
- ◻◻ 変装道具、衣装
- ◻◻◻ 茶器、千両箱などの財産
- ◻◻◻◻ 入れ墨、化粧
- ◻◻◻◻◻ あなた達にのみ見える幽霊

それが……剣客の道